南さつま市建設同友会総会

災害対応に備えを

南さつま市建設同友会（上東伸太郎会長）は14日、同市の南薩建設業会館で第18回通常総会を開いた。公共工事予算の確保や事業創出へ向けた要望などを柱とする事業計画を承認。一致団結して災害時の迅速な対応を図ることも申し合わせた。

公共工事予算の確保対策も決めた＝南さつま市の南薩建設業会館

議事では、2022年度事業・収支決算報告、23年度事業計画・収支予算案などを執行部原案通り可決承認した。

新年度事業計画の重点項目は、①公共工事予算の確保対策②公共工事の平準化施工対策③事業創出のための積極的な活動④市防災訓練への参加⑤砂の祭典参加など市の活性化対策―などを掲げている。

上東会長（上東建設）は「今年はいきなり台風が来たと思えば、長雨が続くなど、不安定な天候となっており、対応に苦慮されていることと思う。災害時の出動を念頭に、準備しておいてほしい。新年度も防災訓練への参加や市との意見交換などを実施し、実りある活動に努めていこう」と呼び掛けた。

4年ぶりに特別講演会

人材確保で農業支える

土測協県部会

土地改良測量設計技術協会県部会（岩満俊一郎部会長）は14日、鹿児島市のアートホテル鹿児島で4年ぶりとなる特別講演会を開いた。農業基盤整備の意義や今後の管理保全について理解を深めた。

県農政部の玉泉利幸農業土木技監は「人材の確保は官民問わず重要な課題。時代の変化に対応しながら引き続き若い技術者に向けてPRが必要」と言葉を寄せた。

登壇した協会の本間泰造フェローは、技術者育成や資格の運用など活動内容を報告。2022年度から始まった農業用ため池管理保全技士について「将来的な施設の管理保全には、若い人材の育成が欠かせない」と訴えた。

九州農政局沖永良部農業水利事業所の山村研吾所長は、島内で進む国営かんがい排水事業を解説。琉球石灰岩に覆われた島は水が浸透しやすく、干ばつによる用水不足は農作物に大きな影響を与える。山村所長は「地下ダムや関連施設による水利システムは、日射による貯留水の蒸発も少ない」とメリットを強調した。

このほか、南部九州土地調査管理事務所の漆畑貴俊所長も管内の事業内容を説明した。

人材の確保や育成の重要性などを確かめた＝鹿児島市のアートホテル鹿児島

岩満部会長（錦城）は「農業が盛んな本県では農業基盤整備は大変重要。今後も県内技術者の育成に努めたい」と力を込めた。

正しい知識習得

整地等機械検査業者資格研修

建荷協県支部

建設荷役車両安全技術協会県支部（諏訪健作支部長）は12日から16日までの5日間、鹿児島市で整地等機械検査業者資格の研修（資格取得）を行った。県内から18人が受講。検査に必要な知識や検査方法を学び、整備不良による事故の予防を確認した。

14日までの前半日程では、座学を通じて装置構造や車両の種類、検査の手順に関する知識のほか、関係法令、検査記録表の記入要領を習得した。

15日からは、同市の玉里産機で実技研修を実施。受講者は、実機を用いてブレーキなど制動装置や電気系統、安全装置のほか装置油圧等の検査と記録の手順を学んだ。

福山等事務局長は「特定自主検査の対象機械は、年に1回以上必ず検査資格者による検査が義務付けられている。研修では、正しい知識と正確な記録を心掛けてほしい」と話した。

研修を終えた受講者は今後1年間、自らの手で、定められた台数の検査実習を行い、記録表を講師に提出。合否判定を経て修了証が交付される。

検査法を学び整備不良による事故の予防を確認した＝鹿児島市の玉里産機

足場組立等講習（曽於）

関係法令など学ぶ

建設業労働災害防止協会県支部（藤田護支部長）

主催の足場の組立て等作業主任者技能講習が10、11日、曽於市の曽於建設会館であった＝写真＝。同支部曽於分会（上集孝一分会長）の会員ら38人が受講。基本知識や関係法令などを学んだ。

このうち初日の10日は、建災防県支部の山本博之氏（委嘱）が講師を担当。作業の方法に関する知識を解説。受講者は注意点などメモを取るなど真剣な様子で講義を受けていた。

また、11日は、堤博志事務局長が関係法令について、山本氏が建設機械や環境、教育に関する知識に関してそれぞれ講義を行った。

笑顔で喜びを分かち合う選手ら＝香川県の坂出市総社グラウンド

森AW（鹿屋市）が連覇

女子ソフトボール　全日本クラブ選手権

森産業グループ（鹿屋市）が運営する女子ソフトボールのプロチーム「MORI ALL WAVE KANOYA」（森AW）が15～17日、香川県の坂出市総社グラウンドで行われた第44回全日本クラブ女子ソフトボール選手権大会で優勝し、前年に続いて連覇を果たした。

大会には全国から24チームが出場し、トーナメント方式で実施。前年覇者として臨んだ森AWは、初戦の2回戦から安定した投手力を見せ、決勝までの4試合全て完封リレーで勝利し、栄冠を手にした。

現地で見守った森義大代表（森建設社長）は「連覇がかかるプレッシャーの中、選手たちは本当に強い気持ちで戦ってくれた。これから先、9月には地元開催のリーグ戦、10月にはかごしま国体も控えているので、さらに地域を盛り上げていけたら」と話した。

試合結果（カッコ内は対戦チーム）は次の通り。

2回戦＝3－0（Red Tigers、兵庫）▽準々決勝＝1－0（厚木SC、神奈川）▽準決勝＝3－0（ALL SAITAMA Sunflower、埼玉）▽決勝＝3－0（Citrine Ichinomiya、愛知）

技術士会県支部講演会

防災教育テーマに

日本技術士会九州本部県支部（井内祥人支部長）は15日、鹿児島市のかごしま県民交流センターでCPD講演会を開いた。会員内外から約30人が参加。3人の講師から防災教育・健康をテーマにした解説を受けた。

38回目を迎えた定例の講演会（CPD3単位）。はじめに九州本部防災委員長で技術士の石本俊亮氏と鹿児島大学教育学部准教授・博士の黒光貴峰氏が「学校教育における防災教育『命を守る授業』実施」と題して、日ごろの防災教育の重要性を説いた。

講演では、逃げ遅れによる死者ゼロを目指した防災授業について解説。災害のリスクを自分自身のこととして意識できる教材やワークショップを開発し、自然災害の専門家として地域住民と行政の連携を目指していることなど、取り組みを説明した。

第一工科大学工学部准教授・博士の中井雄貴氏は「産業分野の予防と健康寿命」に関して説明。産業医学に基づいて改善する支援である産業保健の対象となる職業病や災害発生状況などを紹介した。

井内支部長（中央テクノ）は「8・6水害から30年という節目の年となり、災害の恐ろしさや身を守る手段について子供たちに伝えていく良いテーマとなった。いろいろな機会で伝えていってほしい」と話した。

会員内外から約30人が参加し学びを深めた＝鹿児島市のかごしま県民交流センター

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ